

もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch

[ステッチ]

TAKE
FREE

vol.15
2015.3.11

発行/盛岡市

積み重ねた時間は、
未来への足あと。



[特集]

5年目の春に寄せて
~それぞれのing~

インタビュー

桶谷大 (「岩手ビッグブルズ」ヘッドコーチ)
鳴尾直軌 (「グルージャ盛岡」監督)



発行日/2015年3月11日
企画・編集/株式会社ラデオもりおか
〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-21
TEL.019-621-7110 FAX.019-621-7153
デザイン/冬部幸治(創造集団 志庵)
印刷/山口北州印刷株式会社
Special Thanks/取材、制作にご協力いただいた皆様

※取材、撮影、制作など本誌作成にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。
※掲載されている情報は平成27年2月16日現在のものです。発行後の情報変更につきましてはご容赦ください。
※このフリーマガジンは、盛岡市の復興推進広報事業によって発行されています。※無断転載禁止

Facebookでも
情報を発信中!



もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch

vol.15 2015.3.11

02 積み重ねた時間は、未来への足あと。

〔特集〕

04 **5年目の春に寄せて**
～それぞれのing～

10 三陸うまいもん紀行 井編

12 ステッチサポーター

インタビュー

14 **桶谷大** 〈「岩手ビッグブルズ」ヘッドコーチ〉
鳴尾直軌 〈「グルージャ盛岡」監督〉

18 東日本大震災4周年行事
「祈りの灯火2015 ～これからも共に～」

20 Re:stitch ～読者のみなさんから～

22 プレゼント

大丈夫
暗闇をさまようさなかでも
らせんのように時間は進む。
夜は去り、朝が来て
どんなときも、未来へ向かって。

大丈夫
たとえ気づいていなくても
あなたはここまで歩んできた。
足もとをみれば、
積み重ねただけの時間がちゃんとある。

あなたの目には、どう映っている？
見えていても、見えてなくても
時間が未来へと運んできた。
1秒ずつ、前へ、前へ。

夜が過ぎ、朝が来る。
4年という時間を積み重ねて
あのとき見えていなかった
未来の上に立っている。

積み重ねた時間は、
未来への足あと。



盛岡での学びを経て「初志貫徹」 この春、故郷・宮古の保育士に。

伊藤 完^{たもつ}さん [専門学校生]



stitchに初登場した2年前は、まだあどけなさが残っていた伊藤さん。久しぶりに会った彼はすっかり大人びて「大人になったなあ」と感慨深くなりました。



「震災の経験を、子どもたちの心のケアに役立てたい」。2年前のstitch(6号)に登場したとき、そう話していた伊藤さん。3年間の学生生活を経てその夢をかなえ、この春から故郷・宮古市で保育士として働きます。

4年前、津波で実家が被災。それでも「保育士になる」という思いを諦めることなく、盛岡市内の専門学校に進学。「しえあはーと村(盛岡市復興支援学生寮)で共同生活をしながら、同じ目標を持つクラスメイトたちと、夢に向かって頑張ってきました。

「保育に関する知識や技術を身につけたのはもちろん、あこがれだった『保育士』という仕事の厳しき、難しさも学びました。でも、だからこそ得られる喜び、やりがいがあると信じています」と、学

校生活を振り返る伊藤さん。自炊生活で身に付けた家事のスキルも「保育の仕事にも生かしたい」と笑顔を見せます。

しえあはーと村では、地域との交流の機会がたくさんあり「多くの人に支えられていること」や「地域との関わりの大切さ」も実感。「宮古に戻ったら、地域の復興活動にも関わっていききたい」と考えているようです。

盛岡で得たつながりを大切にしながら、大好きな宮古で、夢だった保育士の仕事を頑張っていきたいと話す伊藤さん。どんな保育士になりましたのですか? と質問すると「宮古の子どもたちには、地元が好きでいてほしい。だから、宮古の自然との触れ合いを取り入れた保育ができればいいなと思っています」と、答えてくれました。

Stitch
3.11
Report

5年目の春に寄せて。 ～それぞれのing～

2011年の東日本大震災発生から4年。被災地にも、5度目の春が訪れようとしています。復興や思い描く未来への思いは同じでも、そこへ向かって進む道はさまざま。今回のstitchでは、それぞれに違う、5つの「ing」を紹介します。

- ▶ 伊藤 完 [4月から宮古市で保育士に]
- ▶ Yahoo! JAPAN [復興支援サイトを運営]
- ▶ 大手書店 [山田町で唯一の本屋さん]
- ▶ 笹山 政幸 [伝統芸能でコミュニティ再生]
- ▶ 箱根山テラス [陸前高田の新「つながる」スポット]

仮設で営業中の山田町唯一の本屋は 「選ぶ楽しさ」も提供している

大手書店



店を切り盛りする恵美子さん（右）とキミさん（中）、一也さん（左）。「観光や出張で町を訪れる人にも、海の幸や地元グルメだけでなく、日用品店も気軽に利用してもらえるとうれしい」と呼びかけます。



新しいまちづくりに向けた、地盤改良やかさ上げ工事が進む山田町。更地が残されたままの中心部には、仮設の集合店舗が、ぽつぽつと離れ小島のように点在しています。

「この辺の区画整理が始まったから、いったん別の仮設店舗に移らなければいけないんです。本設はそれから」

そう話すのは、大手書店の大手恵美子さん。「高砂通り商店街」の1階で、創業者でもある母・キミさん、息子の一也さんの3人でお店を切り盛りしています。

駅のそばにあった店舗も、自宅も津波で全壊。避難所に身を寄せていたとき、「本が欲しい」という声に応えるため、商品を並べて小さな「本屋」を再開。それから2ヶ月後の6月3日には、公園内に設置された大型テント内で仮設営業を開

始し、その1年後、現在の仮設店舗がオープンしました。

「震災前は、取次店から届く本を並べるだけだったんですが、今はお客さんのニーズに沿った品揃えを心がけるようになりました」と恵美子さん。インターネットを使った発注システムを導入し、入荷までの時間を短縮。キャラクターものの文房具やファンシー雑貨のコーナーも増やしました。

「買い物は『選ぶ』ことも楽しみだから。実用重視だけでなく、使うのが楽しくなるようなものも揃えるようにしているんです」。

山田のまちづくりは、まだ始まったばかり。「商店街の元気がなくなれば、まちの元気もなくなってしまう。便利で暮らしやすいまちにするために、私たち商店も力を合わせたい」と話してくれました。

国内トップシェアのポータルサイトは 被災地から「課題解決」を発信する

Yahoo! JAPAN ヤフー石巻復興ベース



④支社としての機能だけでなく、情報交換の場やワーキングスペースとしても使われている「ヤフー石巻復興ベース」と、室長の佐藤真司さん。⑤新鮮な海の幸や手仕事など、魅力的な商品を取り扱う「復興デパートメント」。



東北のすてきな商品を集めたショッピングサイト「復興デパートメント」や、被災地を走る自転車レース「ツール・ド・東北」など、魅力的なコンテンツで復興を後押ししているYahoo! JAPAN(ヤフー)。それらは宮城県石巻市にある支社「ヤフー石巻復興ベース」から発信されています。

「チャリティオークション」「支援ギフト便」など、震災直後から既存のコンテンツを活用し支援のしくみをつくってきたヤフー。2011年12月には、被災地を「買って応援」する「復興デパートメント」がスタートしました。

宮坂学社長が就任した2012年4月以降は「ITで社会の課題を解決する『課題解決エンジン』になること」をミッションに掲げ、同年7月には課題のひとつ「東日本大震災

からの復興」を支援する「ヤフー石巻復興ベース」を設立。「復興デパートメント」を継続して運営できるよう事業として充実させ、地域の産業創出や雇用にもつなげようと取り組んでいます。

「東北には一級品の素材がたくさんありますが、その魅力を存分に伝えるためには、ストーリーとともに発信することが大事。そうして生まれる『共感』が、消費者にアクションを起こさせるスイッチになるからです」。そう話すのは、室長の佐藤真司さん。

被災地への焦点の当て方はさまざまですが、石巻復興ベースが発信するのは「未来」。

「復興は、地方活性化の課題解決にも通じます。実現したら『石巻モデル』として全国に発信したい」と佐藤さん。これからも未来を照らし続けます。

広田湾を眼下に臨むテラスから 陸前高田の未来を描いていく

箱根山テラス



④長谷川順一さん(右)と、スタッフの阿部史恵さん(左)。ふたりの笑顔が、箱根山テラスの明るく心地よい雰囲気を物語っています。⑤宿泊棟からの景色。山の斜面にせり出した大きなテラスが開放感たっぷり。



「震災や復興というキーワードは、ここではあまり重要視していないんです。」
そう話すのは、2014年秋にオープンした「箱根山テラス」代表の長谷川順一さん。広田湾を臨むこの施設は、宿泊やカフェ、ワークシヨップスペースを備えた「交流の場」。市内外を問わず、さまざまな人が訪れます。
長谷川さんは、地元の建設会社の経営者でもあり、震災前からペレット(木質の固形燃料)をはじめとする木質エネルギーの普及に取り組みしてきました。この施設の運営を打診されたとき、「木を使った暮らしを体感できる場にしよう」と引き受けることに。「木と人をいかす」をテーマに、地元の木材をふんだんに使い、ペレットストーブを備えた施設をつくりました。

「時間を有意義に過ごすほしいから」と、宿泊棟はあえてテレビ無し。サニタールームのある共用スペースは、時間帯や用途によってカフェにも、バーにも変身。朝食はそのとき手に入る食材を使い、手作りで提供しています。「ペレットが、木質エネルギーが、と言わなくても、ここで過ごすことで何かを感じてくれたらいい」と長谷川さん。それは復興についても同じ。まちの風景から、誰かとの何気ない会話から、それぞれの「気づき」をもたらす場所でありたいと話します。
「陸前高田の豊かな森林資源をもっと活用して、いつか地域のなかでエネルギーと経済の循環ができるしくみを実現したい」。海を臨むこのテラスから、まっすぐに未来を見据えています。

「言い出しっぺ」の名を冠した祭典で バラバラになった地域をひとつに

笹山 政幸 さん [「奈奈子祭」実行委員会]



「言い出しっぺ(?)」の奈奈子さん



④現在、仮設住宅暮らしの政幸さん。伝統芸能「南部藩壽松院年行司支配太神楽」の継承者でもあります。⑤2014年12月に開催された「第4回奈奈子祭」のようす。

「津波で道具や衣装を失ったけど、10年後には復活して、伝統芸能の祭りをしたいな」
釜石市鶴住居の芸能団体による座談会で、誰かがつぶやいたのは2011年冬のこと。
壊滅状態の鶴住居が、これからどうなるのかさえわからない。この日出席した笹山さんたちはとって「伝統芸能の復活」は、さらに遠い未来だと感じていました。
「じゃあ、うち(実家)でやりますか?」そう口火を切ったのは、笹山さんの妻、奈奈子さん。釜石市箱崎の実家は、三陸各地を巡業する「鶴島神楽」の神楽宿。かろうじて被災を免れていました。
「仮設住宅に移ってバラバラになった地域の人たちを集めたい」。その思いを原動力に2012年1月、奈奈子さんの実家で「第1回奈奈子祭」を開

催。「祭の名称は、言い出しっぺの名前から。本人には事後報告でした」。そう言って笑う政幸さんは、実行委員長を務めています。
「地域にとって伝統芸能は生活の一部。ステージ上のショーではなく、演者とお客さんが一体になって楽しむ、本来の形でやりたい」と、大広間のような「平面」で行うのがこだわり。2回以降は近隣のホテルが会場を無料提供するなど、周りの協力を得ながら、半年に1度のペースで開催しています。
祭り当日は送迎バスも運行。「なかなか遠出できないお年寄りが『元気だった?』と会話をしているのを見るだけでもうれしい」と政幸さん。奈奈子祭は、地域が再生するためのきっかけ。「いつか、この祭が必要なくなる時が復興のとき」と話します。

三陸 うまいもん紀行 丼



でっかいほたてとふわふわたまごが絶妙!

ほたて丼 570円

直径3センチ以上もある大きなほたてが丸々1個ふわふわたまごに包まれてご飯の上に。子どもにも食べやすいようにと考えられた、甘めのだしが新鮮で肉厚なほたての旨みを引き立てる。4種類の海藻とほたてが楽しめる定番の「磯ラーメン」(600円)とミニほたて丼のセット(910円)もおすすめ! 震災後に復活して2年、行列が出来る陸前高田の人気店。

④身が厚く、プリプリ食感の甘いほたては食べごたえあり!

⑥「食堂隣の直売所では陸前高田の海の幸も販売しています」と代表の金野充雄さん。



こんの直売センター

●岩手県陸前高田市米崎町道の75-1
☎0192-54-3571
🕒11:00~15:00
📅水曜

岩手三陸のおいしい海の幸、山の幸をふんだんに使い、新鮮な素材だからこそ味わえるご当地ならではの「うまい! 丼」を紹介!! ポリュームもおいしさも大満足の三陸オリジナル丼を食べに行こう!

極旨! 短角牛ローストビーフのさっぱりヘルシー丼

べっぴん飯 (スープ・キムチ付き) 1,050円

田村牧場で周年放牧された短角牛は、うまみが多く脂肪少なめのヘルシーな肉質が特徴。牧場の厳選肉を味わえるのは直営店ならではの。短角牛ローストビーフに抗酸化作用の高い野菜を合わせ、オリジナルのわさびタレをかけてさっぱりいただける。柔らかく肉厚ローストビーフは噛めば噛むほど肉のうまみが口いっぱい!! 女性に嬉しいヘルシーメニューながら男性にも大人気! 短角牛のさまざまな部位が味わえる「極」(2,450円)でお肉の食べ比べも◎。



田村牧場直営店 焼肉たむら屋

●岩手県久慈市長内町32-15-2
☎0194-61-4129
🕒11:30~15:00(L014:30)、17:00~22:00(L021:00)
📅水曜・第3火曜
HP: <http://www.tankakugyu.com/>



④野田産山ぶどうジュース(280円)を合わせて、北三陸の山の恵みを味わって!

⑥「特製ハンバーグも人気! 自慢の短角牛を味わいに来てください!」

サクサクふわふわ甘辛だれがたまらない!

どんこの唐揚げ丼 880円

今年で創業68年。震災後、テント営業でも作り続けた人気の「どんこの唐揚げ丼」。その日に採れた新鮮などんこだから味わえるふわふわな白身。青じそを散らしたご飯の上に醤油ベースのサクサクころもまとったどんこの唐揚げ。真ん中にはブルブル温泉たまご、甘辛しょうゆダレが食欲をそそります。一度食べたらやみつきになること間違いなし! ※漁の状況により提供できない場合もあります。ご了承ください。



善助屋食堂

●岩手県宮古市田老字向新田148
グリーンピア三陸みやこたらちゃんハウスB-1
☎0193-87-5710
🕒11:30~15:00、17:30~21:00
📅水曜



④一度食べたらやみつき間違いなし! 田老ならではのどんこの唐揚げ丼

⑥「震災後も守ってきた味を食べて欲しい」と店長の赤沼秋子さん

陸前高田の新名物! 贅沢なたこ丼

漁師のたこ丼 800円

陸前高田「天洋丸」の漁師村上優一さんが水揚げした、新鮮な水だこを使ったオリジナル丼を財当仮設住宅の方々が考案。新鮮なうちに丸一日かけてじっくり茹で上げたたこは柔らかく風味豊か。たこの煮汁を使った秘伝タレが染み込んだ煮だこの切り身、煮だこの天ぷらにタレをたっぷり絡めてご飯と一緒に。同店のほか陸前高田市内3店舗でも提供する彩りも鮮やかな陸前高田の新名物! ※漁の状況により提供できない場合もあります。ご了承ください。



④「ふるさと三陸オリジナル丼グランプリ」で最優秀賞を授賞!

⑥「陸前高田の新名物、ぜひ味わいに来て欲しい」と代表の森谷陽樹さん



竹駒食堂

●岩手県陸前高田市竹駒町字館63-4
☎0192-47-4566
🕒11:00~14:00、土日は朝食あり7:00~9:00
📅木曜



ステッチサポーターに参加を決めた理由

- 盛岡を訪問した際に、全国の人に被災地の今を知ってほしいと岩手のみなさんが強く願っていることを知りサポーターに参加しました。風化の問題は被災地から離れた地域では意識されていないように思います。これからも風化防止に微力ながら協力させていただきます。(四国・40代・男性)
- 復興に何も協力していないので、少しでもお役に立てれば幸いです。(関東・40代・男性)
- 高齢者やネットを使わない方にも、被災地の声や状況などを知ってもらうことができると思いました。発行しているのが身近な盛岡市なので取材や記事の内容に親しみを感じて良いと思います。(甲信越・40代・女性)
- ボランティアで現地へ出向けないので、せめて東京でできることをと始めて始めました。(関東・60代・男性)
- 自分も含め、震災の記憶が風化しないようにしたいと思った。被災地で生活している人の様子やそこに関わる人の様子を伝えてもらえるのでありがたいです。(岩手・40代・女性)

ステッチを配布してみて感じたこと

- 店頭と駅前に出しているイーゼルなどで配布しています。あっという間になくなります。友人にも好評です。(関東・40代・男性)
- 「こんな冊子があるんだね」と知ってもらえた。表紙や内容が重くなりすぎず友人たちに情報誌として渡せるのがいい。(岩手・40代・女性)
- 公民館に置かせてもらって、定期的に持って行ってもらっているし、数も増えてきている。(近畿・60代・男性)
- 被災地域でも知られていない物事、若い方たちの活動を知ることができます。決していることばかりではないこと、県外から支援してくださる方が多くいること、小さな冊子にギュッと思いが詰まっていて読み応えがあります。(岩手・40代・女性)
- 岩手訪問で見聞きしたことを話しながらステッチを手渡ししています。興味深そうに受け取ってくれています。風化について考えてくれているのではないのでしょうか。(四国・40代・男性)

〈ステッチサポーターは随時募集しています。参加方法は20ページへ!〉

住まいの復興給付金

詳しくは<http://fukko-kyufu.jp>
☎0570-200-246(有料)
受付時間/9:00~17:00(土・日・祝日含む)

東日本大震災でご自宅に被害が生じた自宅をお持ちの方へ「住まいの復興給付金制度」を活用ください

「住まいの復興給付金制度」とは、平成26年4月1日からの段階的な消費税率引上げに伴い、東日本大震災で被災された方の住宅再取得や被災した住宅の補修に係る消費税の負担増加に対して、消費税の増税分相当(8%の場合は3%分)を給付することで、被災された方々の負担軽減を図ろうとする制度です。

東日本大震災で被害を受けた住宅の所有者が、新しく住宅を建築・購入したり、被災した住宅を補修し、その住宅に暮らしている場合などに、最大約90万円(建築・購入時)の給付金を受けることができます。

離れていても、 気持ち伝えるボランティア



「ステッチサポーター」

東日本大震災から4年という時間が経ちました。

東北の人にとって震災復興は自分たちのこと、身近なこと。

でも遠く離れている人々には被災地の声は少しずつ遠のいているのかもしれない。

「岩手を思ってくれている人たちに岩手の震災復興の様子を伝えていくことで、

これからも応援してもらいたい。」

ステッチサポーター制度は、そんな思いをこめて8号から始まりました。

今では、お店や個人でステッチサポーターとして

活動してくださる方が全国各地にいます。

これまで被災地との関わり方が分からなかった人たちにもできる

ちょっとしたボランティア。

ステッチサポーターにお話を聞きました。



町全体で支援! 長野県軽井沢町の取り組み

長野県軽井沢町では、町をあげて岩手県大槌町の支援を続けています。その一環としてステッチを学校や公共施設などで配布しています。軽井沢町藤巻進町長は「軽井沢町では顔の見える関係での支援を意識して、岩手県大槌町に絞りながら復興支援を続けてきました。復興支援を進めていくことが、子どもたちの心の教育につながると思っています。思いを東北に寄せること、風化させない意識がステッチを読むことによってもたちにも根付いていると感じています」と話します。



長野県軽井沢町「3.11 軽井沢つむぎ隊」復興応援イベントでステッチを配布

が自主的に大槌町支援イベントを企画しました。子どもたちが被災地との交流を続けることで草の根の活動が広がってきています。支援する気持ちは市民レベルの活動でも根強く、長野県にはたくさんさんのステッチサポーターがいます。「これからも支援を継続していきたい」と復興を力強く後押ししてくれています。

Stitch (以下S) / まずは、プロチーム初シーズンを終えたグルージャについて伺います。2014年発足したJ3 (Jリーグの3部リーグ) に参入し、12チーム中5位という結果を残しました。

鳴尾さん (以下N) / J3のチームは、もともとJリーグに加盟していたりJFL (日本フットボールリーグ) に所属していたチームが多いのですが、うちは地域リーグ (東北社会人サッカーリーグ) から上がってきたので全国で戦った経験がない。そのなかでは、いいスタートを切れたなどと思います。

S Jリーグはやっぱり違いますか?

N もともとプロとしてやってきたチームは、実力はもちろん、運営、設備、選手や監督へのセキュリティなど、すべてが「プロ」だなと感じました。でもうちは「勝って当然」というプレッシャーはなかったのだ、思い切りぶつかることができたかなと。

S 岩手ビッグブルズはまだシーズン中

ですが、東リーグの首位を争う強豪チームとして躍進中で、リーグ記録の19連勝も達成しました。「勝って当然」というプレッシャーは感じますか?

桶谷さん (以下O) / うちは、ほかのチームみたいなスター選手はいないんです。だからこそチームで泥臭く戦うのがやり方。19連勝したからといって勘違いしてはいけない。まだまだ、と気を引き締めていかないと。

S チームとしては4年目、桶谷さんが就任してからは3年目のシーズンですが、以前に比べブラスター (ファン) の熱気がすごい! と感じます。

O 「熱」は、特に今シーズンに入ってきてすごく感じますね。だからこそ「来てよかった」と満足してもらええる試合をしなければ、と思っています。

S グルージャは、プロになってサポートの変化を感じますか?

N 本気で上 (J1、J2) を目指しているチームと戦うので、そのサポートの熱気や姿勢からいろんなことを学んでいるところです。でもうちはまだ

「J1、J2」までイメージできていない。地域リーグ時代に比べると入場者数は倍ぐらい増えたのですが、今後J2に上がるには、平均入場者数の規定 (3000人) もクリアしなければいけないんです。勝つだけではダメ。しっかりした運営も求められるので。

O そうなんです! バasketもJリーグの運営の手法を取り入れていこう、という動きがあるので、それぞれが学びながら、プロスポーツを盛り上げていけたらと思いますね。

S 話は変わりますが、震災後、スポーツの世界でもいろいろな被災地支援、復興支援の取り組みをしています。お二人にも「スポーツの力」について伺いしたいのですが。

N 「どうやってたら笑顔を取り戻せるか」という部分でスポーツが求められているのかなと。私たちも被災地でサッカー教室をしたり、被災地の子どもたちを新潟に連れて行き芝生のグラウンドでサッカーを楽しんでもらったりしたのですが、現実にはたくさん悲しみや

岩手のスポーツを、 もっと熱く。

Stitch
INTERVIEW

桶谷 大 × 鳴尾直軌

プロバスケットボールチーム
「岩手ビッグブルズ」ヘッドコーチ

プロサッカークラブ
J3「グルージャ盛岡」監督

今回のstitch interviewは、岩手のスポーツシーンを盛り上げているこのふたり。「岩手の」「プロの」チームを率いることに対する思い、これからの抱負、そして復興における「スポーツの力」についても伺いました。

困難があつて……。でも、サッカーをしている間だけは、それを忘れて夢になれる。その時間を持つお手伝いできたのならうれしいなと思います。

Q震災のときは沖繩にいました。物資を送ったりもしましたが、実感がわかないのが正直なところでした。そのシーズン、仙台のチームが活動休止になり、救済制度でメンバーの1人（志村雄彦選手）がレンタル移籍してきたのですが、彼が「何かをしてほしいわけじゃないけど、震災があつたことは忘れてほしくない」と言ったのが印象的で……。シーズンが終わり、沖繩での契約が切れてすぐに岩手からオファーが来て、行こう、と決めました。すごくおこがましいとは思いますが「岩手のチームを強くして夢を与えたい」という気持ちがありました。

S両チームとも、選手全員が岩手にゆかりがあるわけではありませんよね。県外、国外出身の選手が集まり、また毎年チーム編成が変わるなかで、「岩手のチーム」としてのアイデンティ

対に「負けない」という気持ちで挑むのですか？

Q被災地でのホームゲームはやっぱり特別です。今シーズン、試合前のミーティングでブラックレッジ（ローレンス・ブラックレッジ選手）が「この試合は本当に特別だ。被災地の人たちのために、岩手のために、自分たちは必死で戦う。そしてその姿を来てくれる人たちに見せよう」と言ってくれたんです。その言葉には、ぐっとときましたね。

Nさつき、今シーズンは被災地での活動ができなかったと言いましたが、選手たちは自主的に陸前高田を訪れていたみたいですね。毎年、シーズンが終わると打ち上げをして解散、となるのですが、「どうせお金使うなら、被災地で使おう」と、選手全員で。次のシーズンから、選手会としても何かしたい、という話をしてみたいです。

S選手みなさんが「岩手のチーム」として行動してくれていること、すごくうれしいです。最後の質問ですが、

「岩手のためにプレーする」 それが、 チームの存在意義

桶谷 大 [おけたに・だい]

1977年京都府生まれ。高校卒業後、コーチングを学ぶためアメリカに留学し、帰国後の2005年bjリーグ「大分ヒートデビルズ」アシスタントコーチに就任。その後ヘッドコーチ（以下H.C.）となり、2006年にはプレイオフ進出。2008年「琉球ゴールデンキングス」H.C.就任。2008-2009、2011-2012シーズンとチームを2度の優勝に導く。2012年6月より「岩手ビッグブルズ」H.C.に就任。以降チームは2シーズン連続でプレイオフ進出している。
岩手ビッグブルズHP <http://www.bigbulls.jp/>



岩手における 「スポーツの価値」を、 もっと高めたい。

鳴尾直軌 [なるお・なおき]

1974年岩手県岩泉町生まれ。盛岡市立高校から岩手大学に進み、卒業後、JFL「モンテディオ山形」入団。その後「アルビレックス新潟」や「ジュビロ磐田」でもプレーし、「サンフレッチェ広島」「サガン鳥栖」への移籍を経て、2004年に現役引退。2011年から「グルージャ盛岡」コーチ、翌年には監督就任。2013年の東北社会人サッカーリーグ1部で6度目の優勝、続く全国地域サッカーリーグ決勝大会でも優勝し、2014年からのJ3リーグ入りが承認された。
グルージャ盛岡HP <http://www.grulla.jp/>



ティを、どのように共有していくのですか。

N岩手県出身として、岩手にプロチームを作り、プレーすることの意味をしっかりと伝えたい。今年は実現しなかったのですが、昨シーズンまでは、被災地でのサッカー教室やボランティア活動をしていました。選手は「日本のために」「地域のために」ってよく口にしますが、その本当の意味を、震災が残した爪痕や、復興に向けて頑張っている人たちの思いを肌で感じて、実感してもらいたいと思っています。

Qこのチームの存在意義は、復興を含め「岩手のためにプレーする」こと。それは、シーズンの一番始めに選手やスタッフ全員で共有しています。レギュラーシーズン前には宮古市でキャンプをして、クリニック（教室）なども行っているので、選手たちもいろいろと感じていると思います。

Sビッグブルズは1年目から毎年宮古市でもホームゲームを開催していて、これまで全勝していますね。やはり「絶

今後の抱負などを聞かせてください。

Q釜石でクリニックをしたとき「ブルズに入ることはできないけど、ブルズの選手みたいに、地域のために何かをできる人になりたい」と言ってくれた子がいて、すごく心に残っています。そんな風を感じてくれる子たちをもっと増やしていくことも、自分たちの役割なのかなと思っています。

N岩手におけるスポーツの価値を高めたい、というのはずっと心にあつて、教育現場でもそういう話をさせてもらえたら、とも思いますし、復興支援という面では、もっと「スポーツの力」を実感してもらえようという頑張りたいですね。「Jリーグ入りなんて無理だ」と言われながらもそれを達成できたチームですから、今の「J2なんて無理」という空気をひっくり返したい。2016年には国体もあります。幅広い年代の県民がスポーツの面白さに触れられるチャンス。グルージャとしても何かのカタチで盛り上げていけたらと考えています。

「祈りの灯火2015」 ～これからも共に～

追悼と復興への誓いをこめて
あかりを灯す3.11



手で作ることで
復興への思いを分かち合う

灯籠は、牛乳パックとカッターで簡単に制作できます。洗って乾かした牛乳パックの表面を剥がして底から高さ14センチのところを切り取ります。あかりが輝くように、くり抜いたり、絵を描いたり。ひとりひとりの手で作ることで、追悼と復興への思いを改めて感じることが出来る灯籠。制作会では、親子連れが楽しそうに一緒に作る姿も見られました。3月11日に灯すこと、そのあかりを見つめることで復興への思いを共有する機会になります。

牛乳パック灯籠のつくり方は、「祈りの灯火」ホームページで紹介しています。吉田さんは「灯籠は10分程度

追悼と復興への誓いをこめて
あかりを灯す

東日本大震災から4年。「祈りの灯火」は、盛岡広域首长懇談会主催の東日本大震災周年行事「復興への誓い」の一環として2012年から盛岡市で行われています。東日本大震災で犠牲になられた方を悼み、冥福を祈るとともに復興への誓いの意を込めて、地域住民が約1万個の灯籠を灯します。灯籠は復興の思いを被災地へと届けるシンボルとして優しく光を放ちます。

「内陸の盛岡で行われるイベントなので、沿岸、内陸に住む人、内陸避難者、亡くなられた人も含めて『これからも一緒に歩んで行きましょう』という願いをこめて今年のテーマを『これからも共に』にしました」と祈りの灯火実行委員長の吉田光晴さん。イベントでは中学生を始めとする

で制作できるので参加してほしい。イベントに参加出来ない人も11日の月命日にお家で灯してもらえれば」と呼びかけます。



制作会は参加無料、道具も全て用意してくれます。子どもにも簡単に楽しく作れる灯籠です。



灯籠は牛乳パックの再利用にも! あかりが灯ると幻想的な景色に。

東日本大震災4周年行事「復興への誓い」

追悼式典

- ◆日時/2015年3月11日(水) 14時25分から
 - ◆会場/岩手県公会堂
- 国主催追悼式同時中継。東日本大震災から4年を迎える日に、地域住民とともに亡くなった犠牲者の死を悼み、復興への誓いを新たにします。

祈りの灯火2015～これからも共に～

- ◆日時/2015年3月11日(水) 15時30分～19時
 - ◆会場/盛岡城跡公園(もりおか歴史文化館前広場)・東大通商店街・桜山神社参道商店街
 - ◆HP/<http://inorinotomoshihi.jimdo.com/>
- 市民やボランティアにより約1万個の灯籠を設置、点火されます。ステージイベントや復興グッズの販売、復興屋台などの出店もあります。

る約200名のボランティアや一般市民の手で灯籠が並べられ、ひとつひとつ丁寧にあかりが灯されます。イベント開催前に牛乳パックを使用した手作り灯籠を募集。盛岡市内での制作会やインターネット、学校、企業の取り組みなどを通じて全国各地から灯籠が寄せられています。「全国で気にかけてくれていている人がいる」というのを知る機会が減ってきている。市民が中心になって灯籠を灯すことが気持ちを表す表現のひとつになっています」と吉田さん。

「誰か一人でもいい、沿岸に知り合いや友達を作った遊びに行くだけでも、そのつながりが太いパイプになっていく。岩手の中でもお互いに助け合える関係を作っていければ」とこれからの復興に願いを込めて、今年も3月11日に「祈りの灯火」が開催されます。

Re:Stitch

～読者のみなさんから～

Stitch (ステッチ) に寄せられた声の一部をご紹介します。みなさんのご意見を参考に、よりよい誌面づくりに取り組んでいます。これからもご意見・ご感想よろしくお願ひします。

いつも拝見させて頂いております。仕事で盛岡、釜石、大槌に訪問する際、Stitchを目にして持ち帰ったのが始まりでした。広報担当に話をもち掛け、会社の入口に設置してほしいと頼んだのでした。離れていると、ついつい忘れてしまう人もあるかと思ひまして置かせて頂いております。金融関係から食材業者様、面接に訪れる大学生に至るまで、様々な人が出入りします。牡蠣が好きであることから、三陸応援につながる事が弊社の使命でありますので、少しでも出来ることを、と思っております。しかしながら、自分自身が知識、情報力の向上にと考え、いつも拝読させて頂いております。現地の人の心の中、気持ちが少し分かった気になると言ってしまうのは失礼とは思いつつも、遠く離れている東京にて、4年前のことを思い出しております。これからも頑張ってください。

●40代 男性 / 会社員 (東京都)

貴誌を読み、いろいろと考えさせられます。「孤立」について特に。家族がいなくなり、自分1人になって、仕事もなくなったら…と考えると、「助けて」と声を上げる力が、自分にあるだろうか?と思ひます。しかしやはり自分がむしやらに変わらうとしなければ、やはり他の方々が気づき、手をさしのべてくださるのも、限界があるのではないかと思ひました。いつかそうなった時、1%でも、「自分から」の姿勢を持っていきたいです。

●30代 女性 / 会社員 (盛岡市)

震災から年月が経ち、あの日の事を忘れかけ始めていました。「復興支援」とよく目にしますが、どこか他人事を感じていました。しかしまだサポートが必要な方が沢山いる事を再確認できた今回の記事でした。また同じような事が起こるかもしれない。今度は自分も被災者になるかもしれない。他人事と思わないで自分に出来ることを少しでも行動に移していけたらと思ひました。

●20代 女性 / 主婦 (滝沢市)

ステッチは復興状況を知るうえで大変考えさせられるマガジンだと思います。この様なフリーマガジンをぜひ少しでも多くの方々に読んでもらって、そして土地に来てもらって応援をしてもらいたいです。ちなみに私は釜石のラーメンが好きで年に数回食べに行っています。店主さんの元気な事。これから寒くなります。仮設住宅の方、かぜをひかぬようにと思ひます。

●60代 女性 / パート (久慈市)

今回初めて手に取りました。もう14冊も出されているんですね。まだまだ仕事が決まらず仮設暮らし、貧困、孤立、高齢化など震災がきっかけではなく以前からそうで深刻化してしまったケースもあるということ、なるほどと思ひました。根本からの社会的問題と向き合う必要がある、決して他人事ではないと考えさせられた記事でした。

●30代 女性 / 主婦 (滝沢市)

岩手に越してきて2年、初めてStitchを拝読しました。復興に向けて前向きに頑張っている方々に逆に勇気づけられました。しかしまだ現状は厳しいものと本誌を読んで思ひました。私にできることは、沿岸に出ておいしいものを食べ泊まる、お土産を買う!! かな。人の記憶はあいまいなのでこういった「今」を伝える情報誌があると考えるきっかけになります。これからも頑張ってください!!

●30代 女性 / 会社員 (盛岡市)

遠くはなれた東北のことを知るよい機会であり、毎回見るのを楽しみにしています。こんど家族で訪れようと思ひしています。これからも頑張ってください。

●20代 女性 / 主婦 (徳島県)

3.11の大震災から4年になろうとしています。テレビ等を通して被災された方の姿を見ると、今も心が苦しくなります。私自身、震災時は福島市で勤務しており、福島第一原子力発電所の事故で苦しんだ時代がありましたが、少しづつ立ち直ってきました。家や家族の方を亡くした方の苦しみは計り知れませんが、心から応援させていただきます。岩手県、そして東北地方、日本人々が手を取り合っ、皆が笑顔になる日が来ることを心よりお祈り申し上げます。

●20代 男性 / 会社員 (宮城県)

全国にStitchを広めようプロジェクト!

Stitchの配布にボランティアで協力してくれるサポーター(個人、企業・団体)を随時募集しています。Stitchを全国に広めることで、少しでも震災の風化を防ぎたい! みなさんのご協力、お待ちしております。(年4回発行 / 6月、9月、12月、3月)。

A Stitch配布サポーター [一口10部から] ご近所やお友達、グループなどにStitchを配布していただける個人。

B Stitchサポーターショップ・団体 [一口30部から] Stitchを設置していただけるお店、企業、団体。

※詳細は、HPまたはFacebookページ (<https://www.facebook.com/moriokastitch>) をご確認ください。

【募集方法】 メール・はがきに ①氏名 (Bの場合は企業・団体と代表者名) ②住所 (郵便番号も) ③電話番号 ④メールアドレス ⑤希望口数 ⑥(Bの場合) 設置予定の場所と方法 ⑦ご意見・ご感想を記入の上、ラヂオもりおか内「Stitch編集部 サポーター係」宛てに応募。
【応募先・問い合わせ】 stitch-supporter@morioka-fukkou.com ※郵送先住所は、プレゼントページを参照

ステラモンテ 送別会プラン
盛岡市内バス無料送迎付 (3月末まで)
2時間飲み放題付 お一人様
4,000円~
※20名様以上 一日一組限定
要一週間前予約

TEL: 019-624-7206
住所 盛岡市大慈寺町 10-34 (あさ開敷地内)
営業時間 11:30 ~ 15:00 / 17:30 ~ 22:00

朝日新聞 日本経済新聞 日刊スポーツ 盛岡タイムス
ご購読のお申し込みは

ASA 株式会社 東北堂

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町3番21号
TEL 019-624-2413 FAX 019-622-3699

IGRいわて銀河鉄道不動産
「安全第一」
鉄道会社の不動産
まずはWebで... **IGRの不動産** 検索

盛岡市盛岡駅前通1-48 (IGR盛岡駅・待合室内)
営業時間 9:00 ~ 17:00 (水曜定休 ※3月中は毎日営業)
TEL 019-651-0999

ハウジングサポート **ハウジングサポート** SEARCH ハウサポ

フェイシャル専門店。定額で通いやすく結果重視。
満足度、リピーター様継続率 100%

セラピスト育成講座開講
スキルアップ! 資格をとりたい!
アロマに興味がある! など
週1回2時間のコースから短時間で学べます。
無料説明会は随時電話で承ります。

新メニュー登場!
“脳に記憶と形状を”
メインのハンドエステ
小顔リフトアップ 50分
5,400円

FACE esthetic salon
盛岡市月ヶ丘 2-16-30
平日 11:00 ~ 21:00 (土・日 10:00 ~ 19:00) / 不定休

ご予約・お問い合わせ
019-601-5945

信頼の、さらにその先へ。
岩手銀行
<http://www.iwatebank.co.jp>

土地とともに。
みどりの銀行のイーハトーヴ宣言

豊かなくらし
様々な金融サービスや商品などを通して、当行の社会的使命でもある地域経済・産業の活性化を目指していきます。

豊かなしぜん
当行のコーポレートカラーである「みどり」に注目し、自然保護に取り組んでいます。

豊かなこころ
協賛事業などを通じて、地域の人々、特に若い世代の「こころ」を育むなど、地域の人づくり活動に取り組んでいます。

読者プレゼント

復興応援をしているお店や企業・団体の
おいしい逸品やオリジナルグッズをプレゼント!
ご意見ご感想を書いてぜひご応募ください!!

1 山田生せんべい 5枚入3袋

5名様



古来より伝わる「焼かない」独自の製造方法で作る、薄生地のおせんべい。軟らかい食感が特徴で、噛めば噛むほど風味が口の中に広がります。トースターで

焼くもよし、油で揚げても美味しく召し上がれます。黒ゴマ2袋、白ごまクルミ1袋の計3袋セット。

釜揚げ屋：http://kamaageya.kawasai.net/

提供 / 菓子工房 川最

2 三陸ブイヤベーススープ

5名様



三陸沖で獲れた新鮮な魚をふんだんに使ったブイヤベーススープです。ワインのお供に最適です。パンを浮かべたり、ごはんを入れてリゾットにしたり、パスタに和えたり、お好みでお楽しみ頂けます。

三陸いりや水産：http://www.sanriku-ilya.jp/

提供 / 三陸いりや水産

応募方法

- 応募方法 / 必要事項 (希望商品、郵便番号・住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、本誌入手場所、ご意見・ご感想) を記入の上、はがき、もしくはメールでご応募ください。
- 宛先 / 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-21 ラヂオもりおか内「Stitch」編集部 プレゼント係
- アドレス / stitch@morioka-fukkou.com ■応募締切 / 平成27年4月24日必着

3 ゲラメモmini

4名様



捨てられるはずだった書籍の校正紙(ゲラ)を再生利用して作られた自由帳です。サイズは鞆や上着の内ポケットにも収まるA6サイズ。震災の被災地、岩手県釜石市の福祉事業所で働く障がいのある方々が、すべて手仕事で丁寧に仕上げました。 ※色は編集部にお任せ下さい。

PRe Nippon：http://pre-nippon.com/

提供 / 遠野まごころネット

4 さんてつサイダーセット

4名様



三陸鉄道と久慈の老舗佐幸本店のコラボ商品!! しゅわしゅわとした泡の心地よい爽やかな風味のサイダー 2本と、三陸鉄道の「さんてつよだい」・「サンテツダー」がデザインされたグラス2個セットです。

さんてつ屋：http://sanrikutetsudou.shop-pro.jp/

提供 / 三陸鉄道

Stitch 設置場所

【岩手県内・盛岡】MOSS / クロステラス盛岡 / 盛岡南SCサンサ / ななっく / おでって / アイーナ / 盛岡バスセンター / IGRいわて銀河鉄道 / もりおか歴史文化館 / 岩手県立図書館 / 盛岡市立図書館 / ジョブカフェいわてなど街中各店 / 岩手県内道の駅 / 三陸沿岸各店 【岩手県外】いわて銀河プラザ(東京) / 岩手もりおか復興ステーション(東京) / Cafe Hi famiglia(東京) / さくらWORKS <関内> (神奈川) / 喫茶ともしび(東京) / 風の駅(京都) / OMAR BOOKS(沖縄) 他

次号 Vol.16は6月発行予定

今が旬!

かき小屋 広田湾

● 〒029-2207 岩手県陸前高田市小友町字両替 21

◎ 11:00 ~ 19:00 (L.O. 18:00) ◎ 火曜定休

広田湾の
3メートル厚な
新鮮な
かき!

かき小屋広田湾の味をご家庭で!
買って復興蒸し缶セット

蒸し缶セット **3,240円**
(股付かき12個入り) (税込)

ナイフ・軍手 **540円**
・発泡スチロール (税込)

地方発送承ります。

ご予約・ご注文 **090-8784-2114**

人と人の調和を目指し
新たなステージへ

EP 永代印刷株式会社

〒020-0857 岩手県盛岡市北新町1丁目6-30
TEL 019-636-0111
FAX 019-636-0099

創業明治36年

あなたのそばにもっと身近に

盛岡信用金庫

岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目4番6号
019-623-2111 (代表)

http://www.morishin.co.jp/

盛岡のマチネタを記事にするウェブ新聞

盛岡経済新聞

morioka.keizai.biz

facebook.com/moriokakeizai

詳しくは、盛岡経済新聞で検索!

中華海鮮居酒屋

震災を乗り越え
大館から盛岡へ

10周年

満天

—Manseiten—

飲み放題付
宴会コース
お誕生日
コースも

人気です!

毎週水曜日は、**女性限定**
ドリンク全品半額!

営業 / 17:00 ~ 25:00 (L.O. 24:00)
定休日 / 日曜 (連休の場合は日曜営業、月曜休)
盛岡市大通 1-9-23 平凡ビル 1階

TEL.019-654-5122

男性の場合はカツラ装着でもOKです!